

@幸せな贈り物

人間に キリストが 必要な理由、3つ

イエスを信じなくても良い条件を知っていますか その方との対話はこのようにはじまりました。あるとき、病院で健康検診を受けているときに、時間がかかる検査だったので、医者と話せる時間がありました。医者は、私が牧師だというのが分かっていたので、イエスを信じなさいとは言わないでほしいという雰囲気でした。少し時間が経った後、このような質問をしたのでした。「先生は、イエスを信じなくても良い条件があるのをご存じですか」予想外の言葉に、医者は「いや、イエスを信じなくても良い条件があるのですか」と言いながら聞きたいようでした。「先生が三つの問題だけ解決することができたら、イエス様を信じなくても良いのです。もしかして、先生は今まで生きて来ながら、深くさびしいことはなかったでしょうか」今もさびしいことが多いと言いました。「もし永遠に私を愛して祝福なさる方がともにおられたら、さびしいでしょうか。さびしくないでしょうか。その方が、聖書で語っている神様ですが、その方に会う道を知っているならイエス様を信じなくても良いのです」沈黙が流れま

した。「二つ目は何ですか」沈黙を破って、その医者が問いました。「もしかして、先生は罪のため悩んだことはないでしょうか。私だけが分かる罪のため、その罪責感と報応のために悩んだことはないでしょうか」今も罪を犯して、悩んでいると言いました。「その罪と呪いから解放される道をご存じならば、イエス様を信じなくても良いのです。しかし、その道が分からなかったら、十字架で死んで復活することによって人間を罪と死の原理から解放されたイエス様を信じなければなりません」もっと長い沈黙が流れました。固い表情で彼は最後の三つ目は何なのと問いました。「今まで生きて来て、自分と家庭と家系、医者という仕事をしながら、理解することができないと感じることがなかったでしょうか。言葉にできない変な苦しみはなかったでしょうか」そこで、思いがけない返事がかえってきました。「悪霊がいるようです…」「悪霊の有無は問題ではありません。そこから出て来る道をご存じでしょうか。ご存じだったら、イエス様を信じなくても良いのです」対話の終わりに、その医者は「イエス様を信じるしかないですね…」と告白しました。その人の人生を変えたのは、他ではなく、事実を込めた真実の告白でした。

もしかして、みなさんにも次のような苦しみがありませんか。

① いっしょうけんめいに生きているのに、どうしてなのか生きがいがなく、理解することができないむなしさの中でさまよっていませんか。② それで自分も知らない間に、インターネット、淫乱、ギャンブル、アルコール、ゲーム、麻薬に中毒になって、人間関係、家庭問題、経済問題に苦しんでいるのではありませんか。③ あるいは確かに経済的に、社会的に成功したのに、人には言えない自分だけの悩みと続く問題で苦しんでいるのではありませんか。④ 先祖代々、偶像に仕えて占いやお祓いをして、お札やお守りをつけているのに、災いと困難が続いているのではないですか。⑤ どんなに努力して、最善をつくしても、特別な理由と原因もないのに、事業、職場、家庭に困難が続いていませんか。⑥ 未来の運命が分からなくて、いつも心細くて、つらいのではないですか。⑦ ストレスに苦しんで、うつ病で生きる意欲を失い、否定的な考えに捕らわれて自殺衝動を感じていませんか。⑧ 家庭と家系に不治病や精神的な疾患で、家族が苦しんでいませんか。⑨ 家庭不和による葛藤の中で家出、墮落、不安、あせりで、大きな苦しみにあっていませんか。⑩ よくない友達関係によって、子どもの家出、墮落、さまよい、盗み癖、いろいろな中毒症状で悩んでいるのではありませんか。⑪ 毎晩、悪夢、金縛り、幻覚、幻聴に苦しんでいませんか。⑫ 宗教を持っているのにまことの喜びと平安がなく、罪責感と悪い霊に苦しめられているのではないですか。⑬ 信仰生活をしているのに、まことの答えと平安がなく、しきりに不信仰に捕らわれて、問題の前で挫折して落胆しているのではないですか。

人間にキリストが必要な理由、三つ 与えられた位置や条件と関係なく、人間が生涯を生きて行きながら苦しみの中にいることだけは否認することができない事実です。それなら「苦しみがどうして来るのか。そして、苦しみを解決する道はないのか」それが聖書が語っている核心の主題です。多くの人が、宗教はすべて同じだと思ったり、善を行うことが宗教の目的だと言います。功を立てて、他の人に徳を積めば苦しみが解決されると言ったりします。しかし、聖書は人間の根本的な苦しみの原因と

解決策をととても簡潔で明快に提示しています。創世記 3 章 1 節～6 節を見ると、すべての人間が神様を離れたと語っています。その結果、死と破滅に陥るようになり、罪によって神様の栄誉を受けることができないと言われます。(ローマ 3:23) それゆえ、仕方なくサタンにその人生が縛られ、まことの自由と味わう権威を失うようになってしまいました。(ヨハネ 8:44) 言い換えれば、人間が解決することができない三つの根本問題は、神様を離れたことと、罪に陥ったことと、サタンの手につかまったことです。

この問題を人間自らは解決することができないので、人間にはこの三つの根本問題を解決したキリストが必要なのです。このサタンの権威に勝った方だけが人間の救い主になることができます。そして、人間を救うために、必ず人間のからだでなければなりません。しかし、罪があってはなりません。原罪を犯したアダムの子孫であってはならないということです。罪の代価で罪のないからだが必要ならなりません。また、神様であるという証拠で復活しなければなりません。このすべての条件を満たした方が、世の中にただ一人だけおられたのですが、その方が、すなわちキリストであるイエス様です。イエス様は、十字架の死と復活の事件を通じて、神様に会う道を開かれ(ヨハネ 14:6) 罪を完全に解決してくださいました。(ローマ 8:2) 悪魔のしわざを打ちこわすことによって、私たちがサタンの手から出て、神様の子どもになるようにしてくださいました。(1ヨハネ 3:8) それで、イエス様がキリストで、すべての問題の解決者であることを聖書は宣布しています。

救いとは、キリストを通じてあなたを滅びる罪から解放させることです。第一に、神様との約束を破って離れた永遠に呪われる罪である原罪、二つ目に、原罪の結果でくる罪過である自分が犯す罪、偶像崇拜の結果で子孫に災いを及ぼす先祖の罪です。そして、サタンの権威とその運命から出ることが救いです。サタンは今も生きています。しかし、救われた者を決して倒すことはできません。イエス・キリストの御名で祈れば、サタンは縛られます。また来世にあなたは神様の子どもとして、堂々と天国の御座に座ようになります。天国でだけではなく、現実の中でも、救われた祝福の証拠がずっと来るようになるでしょう。あなたは大事な人です。

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。
わたしがあなたがたを休ませてあげます。(マタイ 11:28)

偶像崇拝の中に隠されているサタンの働き

聖書の出エジプト記 20 章 4 節から 6 節を見ると「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」とされています。

簡単に言うと、偶像を作ったり拜んだりしてはならないとされているのです。どうして、神様は偶像崇拝を禁止されたのでしょうか。どうして、神様が三代、四代まで滅びると言われたのでしょうか。どうして神様はねたむと言われるのでしょうか。人間がそれによって滅びてはならないと言われるのです。早い話が、偶像崇拝をするとき、サタンの戦略が現われて、悪霊の働きが起きます。それで聖書では、してはならないと言われたのです。

偶像神殿を作って偶像崇拝を強要した強大国は、歴史の中ですべて滅ぼされました。偶像崇拝する家庭の子どもたち、特にシャーマンの子どもを見るだけでもすぐ分かります。偶像崇拝は、当然、神様に仕えなければならない万物の霊長である人間が、神様に仕えないで、むしろ万物に仕えるということです。ですから、動物に仕えたり、石に仕えたり、物に仕えるのです。これがサタンの手につかまる完璧な方法です。それで、聖書にだけ偶像崇拝をしてはならないと言われました。ところが、大部分の人は、これも分からず、クリスチャンはどうしてそんなに心が狭いのかと言います。聖書は確かに「自分のために偶像を造って仕えたり、おがんだりしてはならない」と言いました。偶像崇拝というのは、逆になったことを言います。私たちが万物を治めなければならないのに、万物に仕えるのが偶像崇拝です。そこで深刻な問題が来ます。牛が神様である国さえあります。牛は食べれば良いのに、牛を食べないので、牛たちが大手を振って歩き回っていて、牛が来てすべて食べてしまいます。それでも、神様が食事しているので、そのままにしておくのです。

人間は神様に会わなければならないのに、会うことができないからとんでもないことをするのです。それで、この地には形を作って仕える宗教がとても多いのです。そして、誤った思想やどん欲も偶像崇拝です。(コロサイ 3:5~6) 法事も偶像崇拝だと聖書は語っています。「いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。」(1 コリント 10:20)

みなさんがイエス・キリストを信じて救われて神様の子どもになれば、今すぐ、このサタンの働きは去っていきます。これ以上、みなさんをだますことができません。イエス様が呼ばれたのは「悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。」とされています(マルコ 3:13~15) 神様は今も神様の子どもにサタンに勝つことができる権威を与えて(ルカ 10:19) 答えてくださるのです。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。いま、私の中に入れて来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

心の 空いているところを 満たすには



ロシア王朝が崩れてポリシェヴィキ革命が起きて共産党が立てられた時の話だ。

モスクワの赤の広場にある巨大な大砲を空にまっすぐに立てて一発、発砲した党委員長が集まった大衆に言った。「いま、神は死んだ。なぜなら、神はどこにも見えないからだ」このとき、大衆の中からぼろぼろの服を着た紳士が前に出て演壇の前に立った。彼は静かな声で人々に聞いた。「みなさん、この党委員長の脳が見えますか」人々はみんな見えないと言った。すると彼が言った「それでは、この党委員長の脳はないのです。なぜなら、見えないからです」急に党委員長は頭が空っぽの者になってしまった。

人々は現われる現象だけを見て、とても簡単に現実を判断する。それが当たれば良いが、その判断はほとんど誤った結果に至る。世の中には見えることも多いが、実際に見えない真実がもっと多い。人間の視力は、その人が見るができる個人的限界を決める。イタリアの太刀魚をとる漁師の視力は常人が見えない所を見る能力があって、モンゴルの草原を馬に乗って走る人の視力もすぐれる。こんな特別な状況を除けば、普通の人間は自分が識別可能な距離と事物しか見えず、近眼、乱視、遠眼、弱視などで視力の制限を受ける。しかし、いくら良い目を持っていても、自分の目と一番身近にある眉毛を見ることができる人はいない。視野に限界があることもあるが、見なければならぬ方向が違っているからだ。

人間が見なければならぬ最高の優先的価値は、人間の生活を一番人間的にしてくれる福音の原理を見るべきである。見えないその方が人間を創造して、祝福してくださり、自由をくださったが、なぜ私た

ちはこの祝福を十分に味わうことができないのか、考えてみようとしな。必ず存在する神様を見る角度を決めず、むりやりに見えないと無理を言うことは、空に大砲を飛ばした共産党の党委員長と別段違う主張だ。人間にはだれにも飢え渴いたなにかが内側にある。その苦しみを表現できる人がいるが、大概是それを現わすことをいやがる。不思議なことに、神様に仕えるのが当然なことなのに、大衆はそれが恥ずかしいことだと偽り欺くサタンの知恵に、もっと慣れてるからだ。それゆえ、人々は今日もまた今も迷っている。その問題がどこから来たのか知らず、しかも、それがどこまで行くのかは、もっと分からない。心の不安を抱いたまま、恐ろしさを持っていて、かえって神様がいなければ良いという悪意的な考えにとどまるのだ。しかし、道がある。人間の虚無的な考えをご存じで、一番簡単な方法、すなわち人間イエスが解決者キリストになるみわざを見せてくださった。その事実を心で信じて口で認める人々には、神様の自由を贈り物でもらうようになる。人はだれもが、どうしようもなく、環境と生活に苦しんで、危機を経験する。しかも、自分だけが知っている自分の問題を絶対に自分が解決することができないということを、だれよりもよく分かる。それで、福音が必要なことから、恐れないように。いま、苦しく空いている心にイエスをキリストとして受け入れよう。そのとき、雨の後の澄んだ空のようなさわやかさが、あなたを自由するだろう。なぜなら、あなたはその祝福を受けることができる尊い人だからだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ